

## 地域研究コンソーシアム(JCAS) オンデマンド・セミナー

京都大学地域研究統合情報センター 西芳実准教授 講演

### 「災害対応の国際協力を考える」 ～ 2004年スマトラ島沖地震・津波被災地の現場から ～

2014年7月19日 京都大学稲盛財団記念館  
企画責任者：大阪府立北野高等学校 穴井友知

大阪府立北野高等学校は文科省よりスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を受け(平成26年度からの5年間)、グローバル化する国際社会の中で力を発揮できる人材の育成に、より積極的に取り組むこととなった。

本校SGHの全体構想は、東南アジアを主なフィールドとして、経済(日本企業の進出)・災害(防災や国際協力)・比較文化(広告や労働力移動)の3方向から探究を行い、研究者・企業経営者・留学生等との交流や意見交換を深めながら、日本と東南アジアのパートナーシップについて「提言」発信を目標としている。

今回、JCASオンデマンド・セミナーのご協力を得て西芳実先生のご講演に接し、SGHアジア探究グループの生徒・教員にとって貴重な機会となった。

西先生は、スマトラ島アチェ滞在のご経験を踏まえ、30年に及ぶ紛争と、その中で発生した地震・津波被災地の復興の様子について、

「微笑んでいる」被災者に対する支援者側の戸惑い

内戦を経験したアチェの人々にとって、以前の状態に戻る意味での復旧が何を意味するか

遺体無きままの「弔い」を強いられた人々からの、様々な様式のメッセージ

などをお話になり、現実を踏まえて被災者のメッセージを読み解きコミュニケーションを積み上げることが以下に大切か、地域研究やフィールドワークの本質を理解する契機にもなった。

